



第2章 北竜町の概況

1 位置・地勢

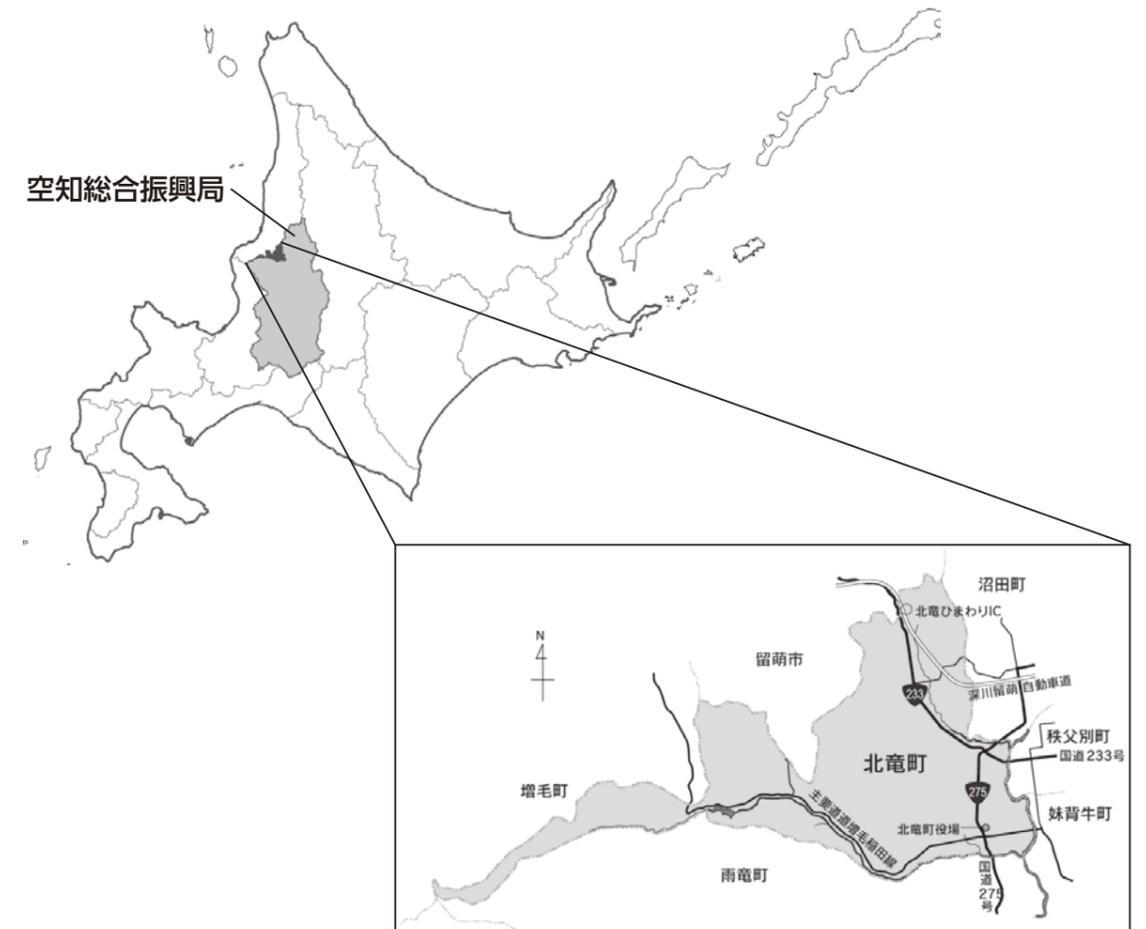
本町は、空知総合振興局管内の北部、雨竜郡の西北隅に位置し、東は秩父別町及び妹背牛町、南は雨竜町、西は増毛町、北は留萌市及び沼田町と接しています。

西部は、暑寒別岳を主峰とする増毛山脈がそびえ、暑寒別天売焼尻国立公園を有する山岳地帯となっており、東部は、農耕に適した平坦地が広がり、西高東低の地勢となっています。

東西 28km、南北 14kmと東西に長い形をしており、総面積は 158.82km²で、このうち山林が7割近くを占めています。

気候は、内陸性気候であり、冬季は南西風が多く寒冷で、積雪が 1.5 m～ 1.8 mにもなりますが、夏季は比較的温暖で南西風が多く、稲作・畑作に適しています。

■北竜町位置図



(3) 計画策定の視点

①長期的な人口維持を見据える視点

現在、日本は長期的な人口減少社会へ突入しており、本町にとってもそれは例外ではありません。人口政策には長期的な視点が必要であり、段階的に効果的な政策推進を図れるよう、人口維持政策を重視します。

②町民参加等による計画づくり

まちづくりが、町民・団体・企業・行政等の本町構成員のすべてによって進められるよう、各種の意見聴取機会やアンケートなどで寄せられた町民の声を活かすとともに、多様な町民参加方式を取り入れた計画づくりを進めます。

また、全庁的な職員の意識高揚に努め、積極的参画を図ります。

③現行計画の成果と課題を踏まえた計画

「ふるさと北竜未来プラン」に基づき、これまでの 10 年間における施策・事業の評価を行うとともに、町民アンケートにより施策の満足度と重要度を分析します。また、実際に施策・事業を推進する上で発生した課題の整理を行い、社会潮流を踏まえた上で、今後 10 年間の取組を検討していきます。

④町民に伝わりやすい計画策定

具体的な目標を盛り込むなど、目標達成度を明らかにできる計画づくりを進めます。また、計画の策定段階から推進段階に至るまで、その状況等を公表する計画づくりを進めます。

計画の進行管理においては、今年度導入を予定している「行政評価制度」と連動し、成果指標による評価とその評価結果に基づく施策・事業の見直しを進めていきます。



6

序 第1部 論

基本 第2部 構想

基本 第3部 計画

資料 編

7

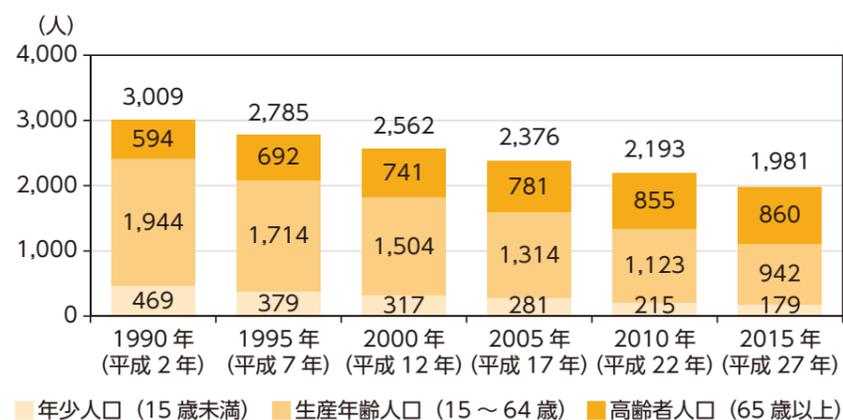


2 人口・世帯の状況

(1) 総人口の推移

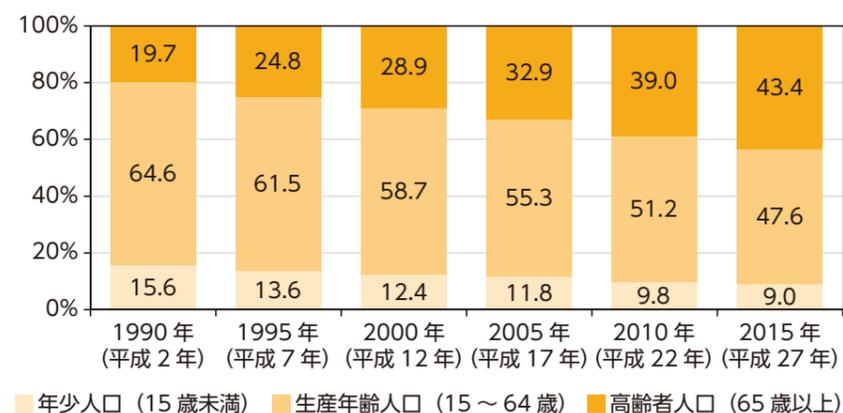
国勢調査による本町の総人口は減少が続いており、1990年（平成2年）は3,009人でしたが、2015年（平成27年）には2,000人を割り込み、1,981人となっています。このような中、少子高齢化も進行しており、2015年（平成27年）における高齢者人口の割合は43.4%で北海道の29.1%を大きく上回っています。

■総人口と年齢3区分別人口の推移



※年齢不詳：平成2年（2人）
【出典】国勢調査

■年齢3区分別人口割合の推移

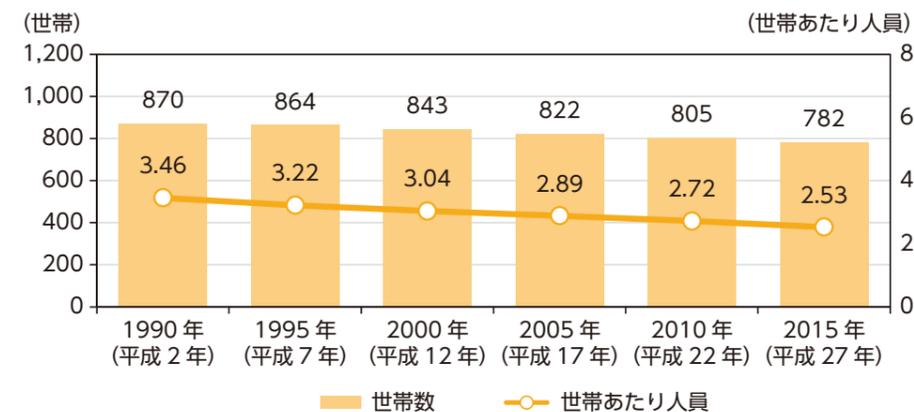


※年齢不詳：平成2年（2人）
【出典】国勢調査

(2) 世帯数の推移

総人口とともに世帯数もゆるやかな減少傾向が続いており、1990年（平成2年）の870世帯から2015年（平成27年）には782世帯となっています。世帯あたり人員は1990年（平成2年）の3.46人から2015年（平成27年）には2.53人まで減少しており、核家族化の進行により世帯規模が縮小していることがうかがえます。

■世帯数と世帯あたり人員の推移



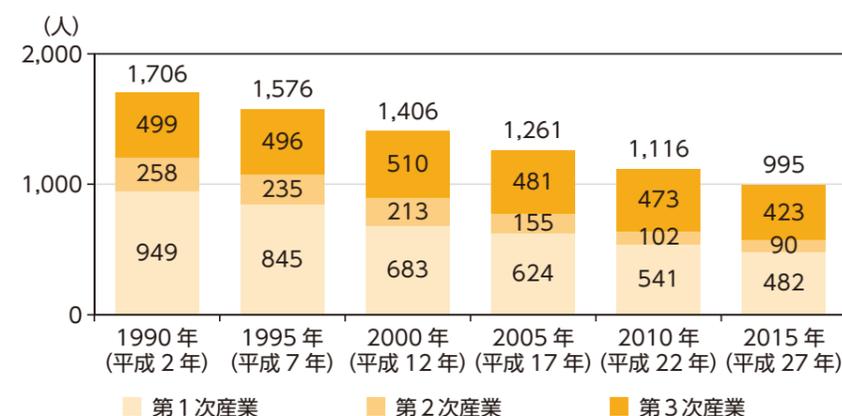
【出典】国勢調査

3 産業の状況

(1) 就業者数の推移

生産年齢人口の減少とともに就業者数も大きく減少しており、就業者数全体では2015年（平成27年）には995人となっており、第1次産業と第2次産業で大幅な減少となっています。

■産業別就業者数の推移



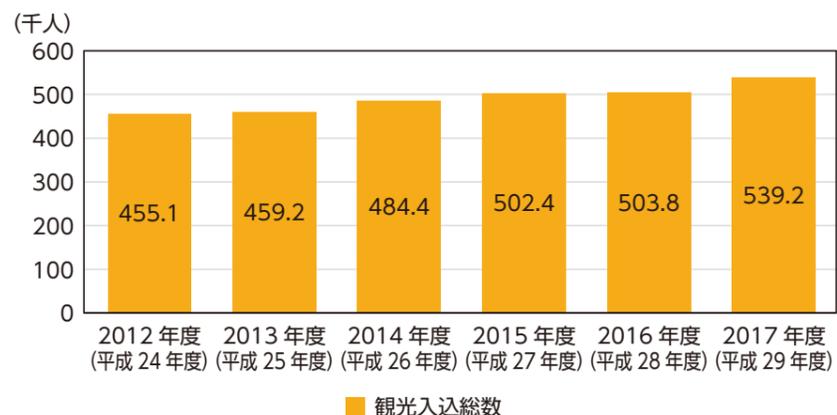
【出典】国勢調査



(2) 観光入込客数の推移

北海道へのインバウンド²観光増加等の影響もあり、ひまわり観光を中心とした本町の観光入込客数は堅調に推移しており、北海道観光入込客数調査報告書によると観光入込客数は2017年度（平成29年度）に539.2千人となっています。

■観光入込客数（入込総数）の推移



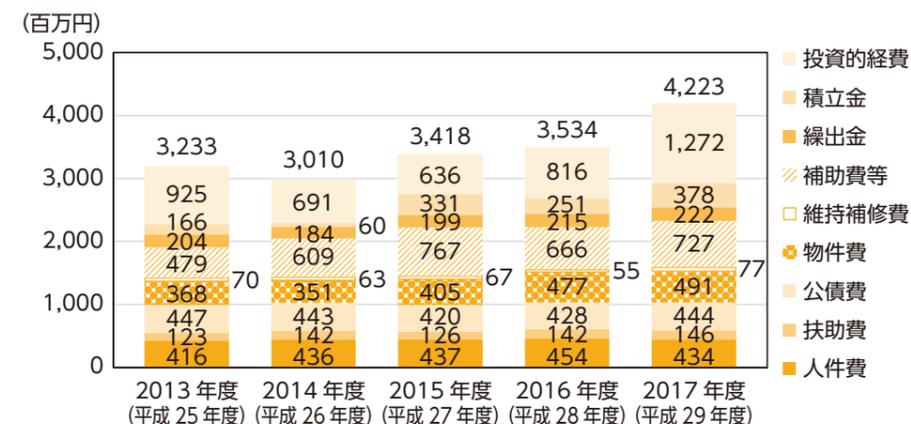
[出典] 北海道観光入込客数調査報告書

(2) 歳出決算額の推移

歳入と同様に本町の歳出決算額は2014年度（平成26年度）から増加しており、2017年度（平成29年度）の歳出総額は42億2,308万円となっています。

内訳の推移をみると、義務的経費（人件費、扶助費及び公債費の合計）はおおむね横ばいに推移していますが、投資的経費、物件費及び補助費等で増加傾向がみられます。

■歳出決算額の推移（一般会計）



[出典] 北竜町

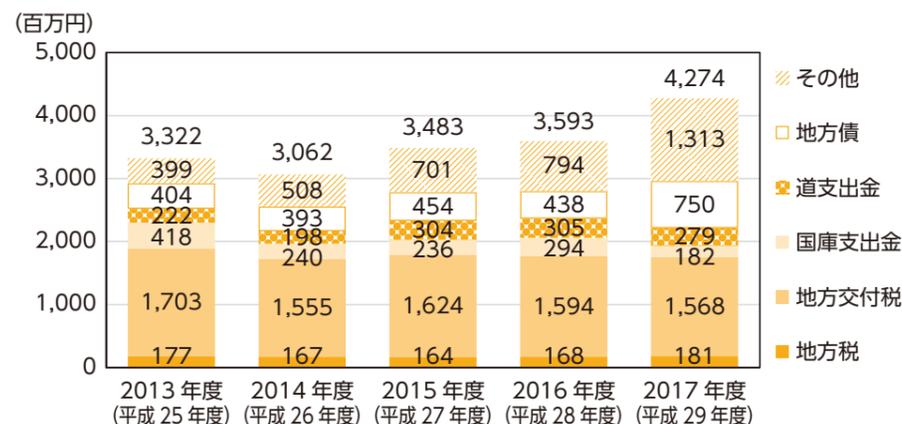
4 財政の状況

(1) 歳入決算額の推移

本町の歳入決算額は2014年度（平成26年度）から増加しており、2017年度（平成29年度）における歳入総額は42億7,531万円で、対前年比でみると18.9%の増加となっています。

2017年度（平成29年度）の歳入の内訳をみると、前年と比べて「地方債」及び「その他」の伸びが大きく、「その他」の中では寄附金及び繰入金が増加しています。

■歳入決算額の推移（一般会計）



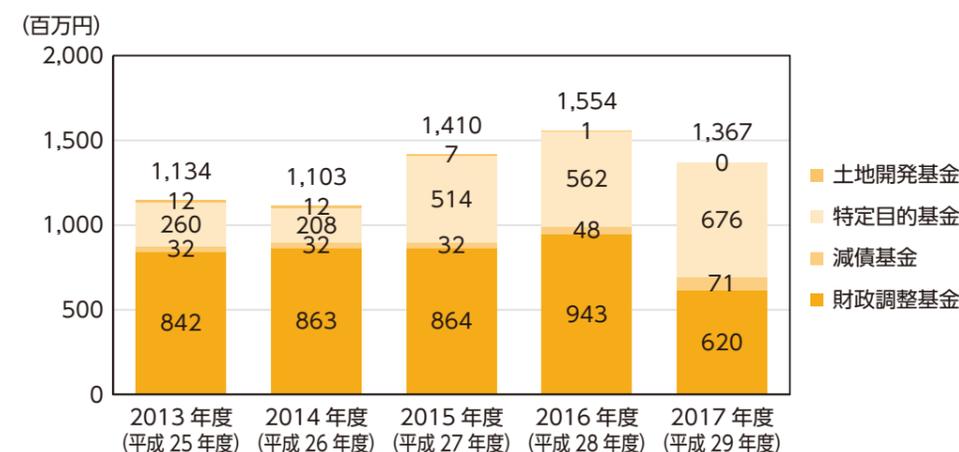
[出典] 北竜町

(3) 基金残高の推移

基金³残高は、2014年度（平成26年度）以降は増加傾向にありましたが、2017年度（平成29年度）は減少に転じており、基金残高総額で13億6,703万円となっています。

基金残高の内訳をみると、特定目的基金は2014年度（平成26年度）以降、継続して積み上がっていますが、財政調整基金は2017年度（平成29年度）の取り崩しにより減少しています。

■基金残高の推移（一般会計）



[出典] 北竜町

2 インバウンド
外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド（Outbound）または海外旅行という。

3 基金
条例の定めるところにより、特定目的のために財産を維持し、資金を積み立て、又は定額の資金を運用するために設ける財産。





第3章 時代の潮流とまちづくりの課題

1 時代の潮流

(1) 少子高齢化と人口減少の進行

日本の総人口は、社会環境の変化による出生率⁵の低下で減少に転じています。一方で平均寿命の伸びにより、超高齢社会が一層進むことが予想され、社会全体の活力低下は避けて通れない状況となっています。

このため、今後は安心して子どもを産み育てることができる環境づくりや、高齢者が元気に生きがいを持って暮らせる環境づくりを進めることが重要になります。

(2) 高度情報化の進展

インターネットなどの普及により地球的規模で情報の入手やコミュニケーションを行うことが可能になり、社会経済の様々な分野で情報通信の果たす役割が高まっています。

日常生活においても、情報ネットワークを介して様々なサービスが利用できるようになり、人々の暮らしに大きな変革をもたらしましたが、その反面、企業や個人の情報の流出が問題になっており、セキュリティ対策⁶など適切な情報管理が求められています。

(3) 価値観・ライフスタイルの多様化

今日、人々の意識は物質的な豊かさから精神的な豊かさを求めるものへと変化していると同時に、価値観の多様性が進み自主性と個人を重視したライフスタイル⁷になっています。

今後は心の豊かさを実感でき、個人の主体的な活動が尊重される社会の実現が求められています。

(4) 経済情勢の変化

経済のグローバル化⁸が進み、日本の産業構造は大きく変化してきており、特に製造業における生産拠点の海外移転などで国内産業の空洞化が進行しています。

5 出生率
一定期間の出生数の人口に対する割合のこと。一般に、人口1,000人当たりの1年間の出生児数の割合をいう。

6 セキュリティ対策
インターネット上の攻撃である、ウイルス、不正侵入などの被害に遭わないよう対策を講じること。

7 ライフスタイル
生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方のこと。

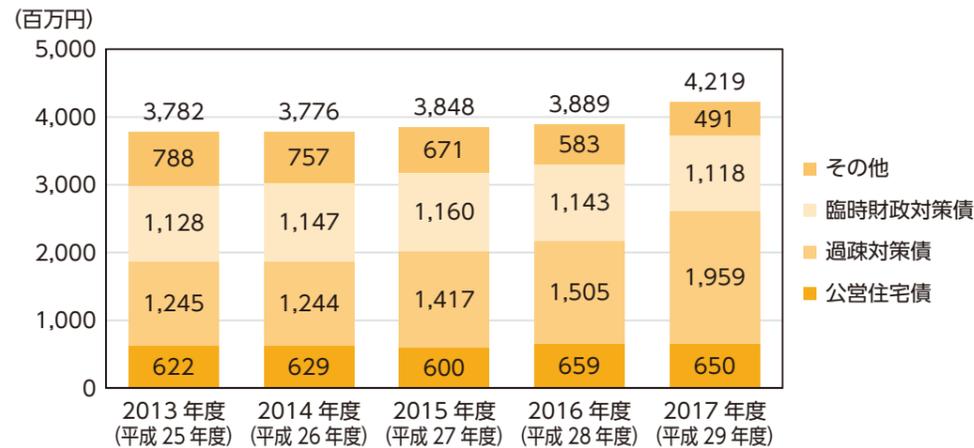
8 グローバル化
政治・経済、文化など、様々な側面において、モノ・カネ・ヒトが、国境を越えて世界的なつながりを持ち、一層自由に移動できるようになること。

(4) 地方債残高の推移

地方債⁴ 現在高は、2013年度（平成25年度）の37億8,244万円から増加傾向にあり、2017年度（平成29年度）には42億1,858万円まで増加しています。

地方債残高内訳の推移をみると、公営住宅債及び臨時財政対策債はほぼ横ばいに推移していますが、過疎対策債は2014年度（平成26年度）から増加しています。

■地方債残高の推移（一般会計）



[出典] 北竜町



4 地方債
地方公共団体が1会計年度を超えて行う借入れのこと。

